

地層の区分

袖ヶ浦1丁目地域の地盤構成は、上部より、盛土・埋土層 (B)、沖積砂質土層 (As1) もしくは沖積粘性土層 (Ac1)、洪積砂質土層 (Ds1) で構成され、ほぼ水平に堆積しています。

最上部の盛土埋土層 (B) は、砂質土を主体としており、地域全体を覆っています。

沖積層は沖積砂質土層 (As1) が主体となっており、沖積粘性土層 (Ac1) は一部、海側で見られます。

表-1 土質層序表

時代	土質名	土質	記号	特徴
第四紀	盛土・埋土層	砂質土	B	全体に砂質土主体 貝殻片を混入する
	沖積砂質土層	細砂 シルト質細砂	As1	粒径が細かく均一な砂を主体とし、少量 のシルト分および貝殻細片を混入する
	沖積粘性土層	シルト 砂質シルト	Ac1	シルトを主体とする 全体に粒径の細かい砂を混入する
	更新世	洪積砂質土層	細砂 微細砂	粒径の細かい砂からなる 所々粘土分をはさむ

各地層の特徴

・ 盛土・埋土層 (B)

盛土層は、一番表層にあり、粒径細かい砂からなり、少量の粘土分を混入しています。

埋土層は、浚渫土ともいわれており粒径の細かい砂を主体とし貝殻片を含んでいます。

・ 沖積砂質土層 (As1)

沖積砂質土層は、全体的に粒径が細かく均一な砂からなっており、少量の貝殻細片を混入しています。上部では少量のシルト分を混入しています。

・ 沖積粘性土層 (Ac1)

沖積粘性土層は、シルトを主体とし、全体に砂分を混入します。

上部は砂分を全体に多く混入し少量の貝殻片を混入します。

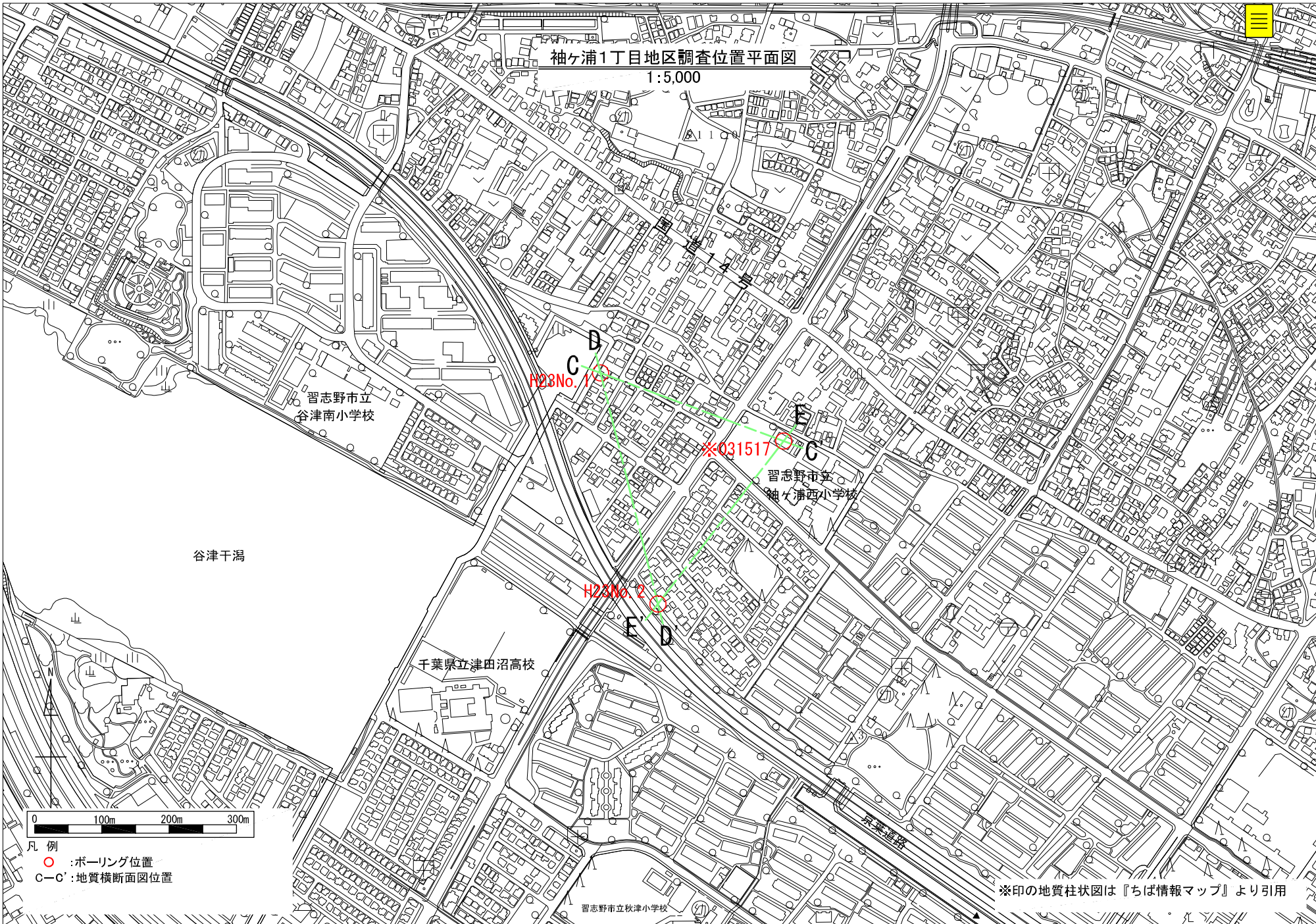
下部は砂分の混入量が少なくなり貝殻片を混入しません。

・ 洪積砂質土層 (Ds1)

洪積砂質土層は、粒径の細かい砂を主体としていますが、所々、粘土分を挟みます。

袖ヶ浦1丁目地区調査位置平面図

1:5,000

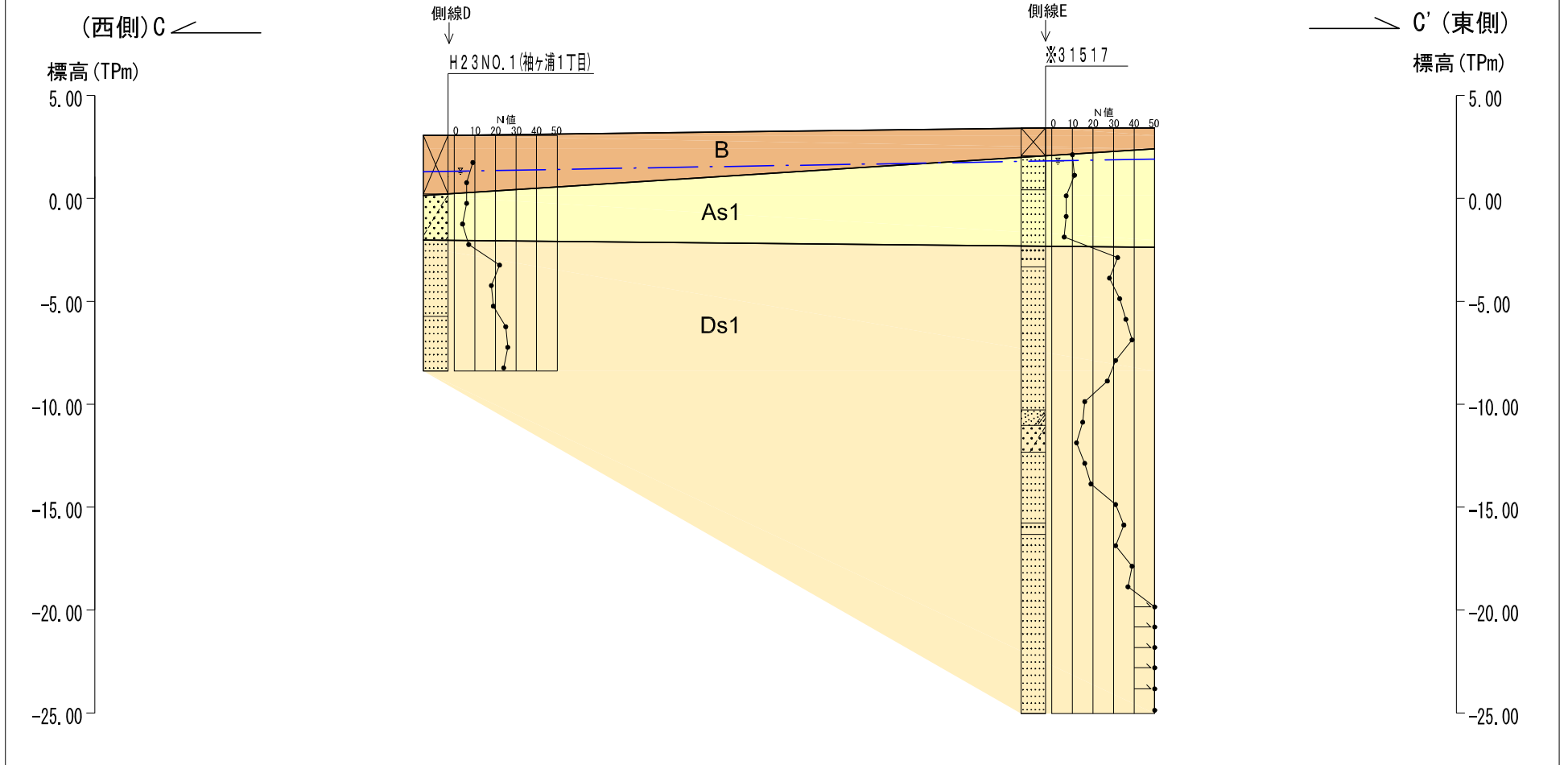


凡例

- : ボーリング位置
- C-C' : 地質横断面図位置

※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

想定土質断面図 (測線C-C')
縦1/200 横1/2,000

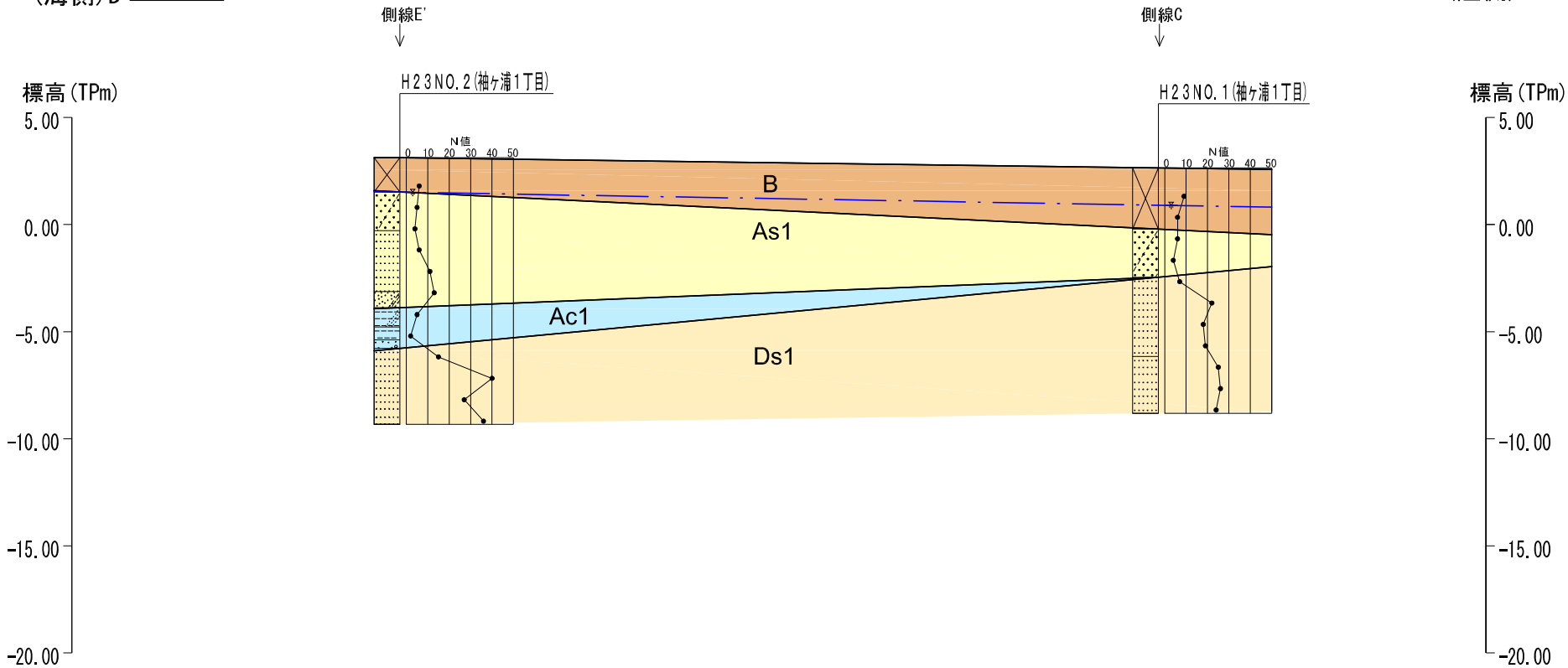


※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

想定土質断面図 (測線D-D')
 縦1/200 横1/2,000

(海側) D' ←

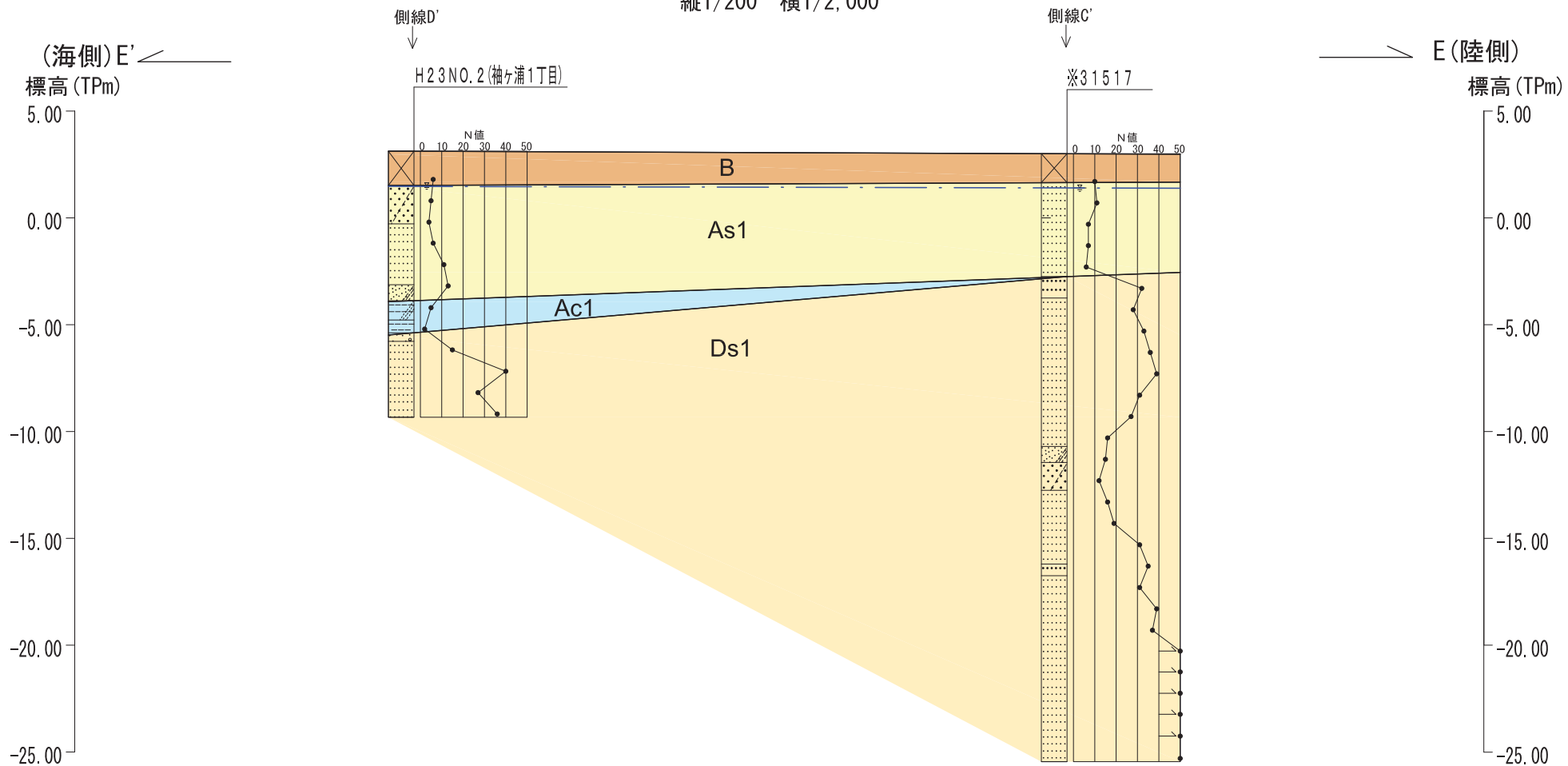
→ D (陸側)



※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用

想定土質断面図 (測線E-E')

縦1/200 横1/2,000



※印の地質柱状図は『ちば情報マップ』より引用